「現場力」を
身につける。
教室からフィールドへ―

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

2024 大学院案内

これからの社会を構想するために

東北大学
公共政策大学院院長
西岡　晋

東北大学公共政策大学院は、公共政策分野の担い手として高度な専門的知識や能力を身につけた「政策プロフェッショナル」を育成することを目的に、2004年に発足いたしました。政策プロフェッショナルとして必要な知識や能力とは何か、どうしたらそれらを大学院で教えることができるのか。私たちが出した一つの答えが「現場力」であり、現場力を身につける場としての「ワークショップ」という授業形態です。

公共政策の企画・立案は、問題の発見、原因の分析、解決策の探求、政策の提言という一連の過程から成り立っています。そこでは、多くの専門的・学術的な知識も必要です。しかし、そうした「知識」は、頭のなかに入れておくだけでは干からびてしまいます。実践の場で生かすことによって、はじめて真の価値が発揮され、「知恵」となるのです。

頭のなかの「知識」を生きた「知恵」へと昇華するために必要なのが、現場力です。問題が実際に生起する現場に入り込み、自分の目で観察し、人びとの声に耳を傾け、その土地の歴史を理解する。現場で得た情報をもとに、現場の具体的な姿を頭に描きながら、政策を構想することができる。現場力とは、こうした力の総体です。

現場力を身につける場として私たちが用意しているのが、「公共政策ワークショップ（WS）」です。毎年度4つ設けられ、学生はそのいずれかに所属します。中央省庁から派遣された実務家教員と研究者教員が共同で、実務と理論の両面から指導を行うこともWSの特徴です。WSでは、実際の行政機関や民間企業と同じく、チームとして一つの課題に取り組みます。そして、現場に赴いてヒアリングや調査を行い、政策案を練り上げていきます。それは、これからの社会の理想を考え、構想するという意味で、クリエイティブなプロセスでもあります。

私たちの地元である東北地域は、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けました。WSでは、仙台や宮城をはじめとする多くの東北地域の現場に出かけていき、復興や防災・減災、コミュニティの再構築、あるいは農業の再生といった課題を抽出・分析し、解決に向けた政策提言を行ってきました。これらの課題は東北地域に限られるものではなく、日本のその他の地域でも重要なものばかりです。さらには、新型コロナ対策のような緊急の課題や経済安全保障のようなグローバルなテーマも取り上げ、日本各地だけでなく外国にも調査の足を延ばしてきました。現場は至る所にあるからです。

本大学院の修了生は、国、地方自治体、シンクタンク、マスコミ、民間企業などさまざまな職場や分野で活躍しています。大学院で身につけた現場力や能力は、どのような分野に進もうと、役に立つものだと自負しております。修了生が経験し、また現役生が今まさに取り組んでいるのと同じように、私たちと一緒に現場に赴き、そして、これからの社会のあり方を構想してみませんか。みなさんのご参加を、心よりお待ちしています。

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

Contents

院長あいさつ ……02
3つの特長 ……03
【特長1】　実践的なワークショップ……04
2023年度　公共政策ワークショップI……06
【特長2】　高度で多彩なカリキュラム ……08
教員紹介 ……10
【特長3】　少人数制によるキャリア形成支援 ……12
座談会　公共政策を学び始めて ……16
さまざまなフィールドで活躍する修了生 ……19
就職・進路関係 ……21
入試関係情報 ……23

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、詳細な情報をご覧いただけます

「公共」のプロフェッショナルをめざして

3つの特長

特長1 実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策提言をつくりあげていきます。

特長2 高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

特長3 少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。

→ 修了者には「公共法政策修士（専門職）」の学位を授与

特長 1

実践的なワークショップ

公共政策ワークショップ

東北大学公共政策大学院の「真髄」

POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。

公共政策ワークショップⅠ（1年次必修）、ⅡA・ⅡB（2年次必修）

1年次の「公共政策ワークショップⅠ」（通年12単位）では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ7、8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップⅡA・ⅡB」（計8単位）は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップⅠ」と同様です。

共生社会へ25施策

東北大院生 大館市に研究報告書

大館市の共生社会を目指すまちづくりについて調査研究した東北大公共政策大学院の学生ら教員17人が10日、同市を訪れ、政策提言をまとめた報告書を福原淳嗣市長に提出した。

国登録有形文化財・桜機館で報告会が開かれ、市や福祉団体の関係者約20人が出席。西岡冒院長は「学生のワークショップに不可欠なのが自治体の協力。市関係者に大変お世話になった。研究成果の発表できたのない意見をいただきたい」とあいさつした。

リーダーの吉川勇人さん（1年）から報告書を受け取った市長は「先進的共生社会ホストタウンとしての羅針盤になる」と謝辞を述べた。

学生たちは「パラリンピックのレガシー（遺産）としてのダイバーシティ＆インクルージョン（多様性を認め合う）都市の形成に向けた研究」と題し、昨年4～12月に文献調査や聞き取り調査を重ねた。

障害のある人たちと議論する協議会の設置や、無料通信アプリ「LINE（ライン）」で道路異常を通報するシステム導入、企業のダイバーシティ＆インクルージョンを支援するパートナー制度創設、外国人を取り巻く課題の解決に向けたグループミーティング開催など25施策を提言した。

福原市長に報告書を手渡す吉川さん（桜機館）

出典：2023年2月11日 北鹿新聞社記事

公共政策ワークショップⅠの進め方

1 基礎知識の習得

出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。
まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2 現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。

3 報告会Ⅰ（7月下旬）

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。
学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。

4 政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、
リアリティのある政策提言を追求していきます。

5 報告会Ⅱ（12月下旬）

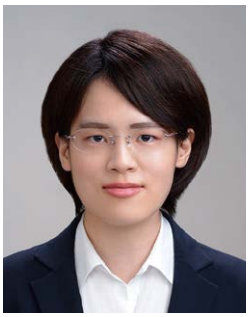
公共政策ワークショップⅠ最大の「やま場」。提言先等の方からもコメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。

6 最終報告書の完成・提言先への説明・送付

在学生から

ワークショップで感じた魅力

東京都出身
拓殖大学政経学部卒業　**山田 麻友**（2022年度入学）



本大学院の特徴として、1年次の公共政策ワークショップⅠがあります。文献調査やヒアリングを行い政策提言することを目指します。国際ワークショップの場合は国内だけでなく海外でもヒアリングを行う場合があります。2022年度は豪州でヒアリング調査を行いました。実際の政策課題について国内外を問わず現場で調査を行い、メンバーと協力して考えをまとめていくという経験をすることが出来るのはワークショップの大きな魅力だと思います。

2023年度 公共政策ワークショップⅠ

「公共政策ワークショップⅠ」は、例年、概ね４つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。

ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロジェクトのテーマは、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

プロジェクト PROJECT A 地方創生のモデルとなる取組を探索・研究して自分の故郷を元気にする地域振興政策を提唱しよう

知事や市長になったつもりで故郷を元気にする地域振興政策を提案しよう!

主担当 教 授 **松村 孝典**

1992年農林水産省入省。
農林水産省の他、交流人事を通じて、
国土庁（阪神淡路大震災）、
内閣官房行政改革事務局、山梨県庁、
静岡県焼津市役所、
東京海上日動火災保険の勤務を経て、
2021年より現職。

皆さんは、故郷の現状をどう感じていますか。幼少期などを過ごし思い出が一杯詰まっている故郷を、もっと素敵な街にしたいと思いませんか。本WSでは、学生の故郷の現状・課題を分析し、地域の強みを活かした地方創生の実現に向け、座学だけでなくフィールドワークも重ねながら、あるべき政策を模索・研究しています。地方創生。国も昨年末に新たな戦略を取りまとめました。学生の皆さんには、今後の地方創生のモデルとなる事例を探索・研究し、そのモデル事例を自分の故郷に展開した場合、どのような政策効果が期待できるのか、実現に当たっての課題は何か、多岐にわたる関係者との意見交換等を通じ、学んでほしいと思います。そして、本WSで得た知見を活かして、例えば就職面接時に「御庁・御社の業務・ビジネスを通じて自分の故郷を活性化したい。元気にしたい」と自己アピールする糧につなげるなど、このWSの活動を、新たな知識習得にとどめず、将来希望する組織・部署で活躍するチャンス獲得にもつなげてほしいと思っています。

プロジェクト PROJECT B 広域合併自治体の行政体制と旧町村の地域振興に関する研究

人口減少の現実を直視し、地域のサステナビリティを追求しよう!

主担当 教 授 **石山 英顕**

1992年自治省入省。
4度の消防庁勤務
（2つの大震災対応を経験）のほか、
内閣官房や参議院法制局、
国土交通省航空局への出向、
沖縄県、長崎県及び宮城県各県庁での
地方勤務、調査員としてドイツ駐在などを経験。
消防庁総務課長を経て2022年8月より現職。

平成の大合併においては、行財政基盤の強化などが合併の意義として挙げられていた一方、周辺地域の衰退が最も強く懸念されておりました。また、我が国では大都市圏への人口流出傾向は変わらぬ中で、平成の大合併最中の2008年をピークに総人口が減少に転じて人口減少時代を迎え、2021年10月1日の人口推計で対前年比過去最高▲0.51％の減少率となる状況に直面しております。

2005年10月、周辺の4町1村とともに市域が東西約43㎞・南北約56㎞にも及び、面積1,311.53㎢と全国10番目の広域市町村となった山形県鶴岡市にとっても、高齢化と加速する人口減少が切実な問題となっている地域があり、将来的な集落機能の維持が懸念されております。

プロジェクトBでは、日本中の多くの地域で同様の厳しい現実にあることに理解を深めつつ、山形県鶴岡市を研究フィールドとして、旧町村の実情を踏まえた地に足のついた地域振興のための政策提言を目指しております。

プロジェクト PROJECT C 資源循環・気候変動・自然共生に関わる国内外の動向及び対策に関する研究

国内地域から地球の未来まで見据え身近なプラスチックを例に考えてみよう!

主担当 教授・副院長 **江口 博行**

環境庁（現環境省）入省。省内局部に加え、外務省在ジュネーブ国際機関日本政府代表部、経済産業省九州経済産業局、千葉県流山市環境部長等も経験後、官房総務課企画官、自然環境局及び水・大気環境局総務課長、内閣官房内閣審議官等を経て2022年8月より現職。2023年度副院長。

現在、気候変動、資源循環、自然との共生、SDGs等の観点から国内外で様々な検討・取組みが加速する中、身近な生活でも幅広く利用普及されてきたプラスチックも緊要な課題となっています。近年レジ袋有料化に続き、プラスチック資源循環促進法が昨春施行され、ここ仙台市では従来の容器包装に加えて製品プラスチックの一括回収・リサイクルが全国先駆的に本年4月始まり、市民でもある私達一人一人の意識と協力が重要であると共に、今後の状況や他の自治体の対応等も注目されます。また、2050年脱炭素社会・カーボンニュートラルを目指す中での温室効果ガス対策、海洋流出プラスチックの地球規模汚染に関し昨年末開始された新たな国際条約化交渉、本年日本が主催するG7を始め内外の動向も注視されます。国内国際両面で急速に展開・深化し、ライフスタイル・ビジネスにも密接なテーマについて、現状・課題・動向の把握整理、今後の取組みの企画提案、取纏等の貴重な機会・経験を御一緒できる事を楽しみにしています!

プロジェクト PROJECT D 福島原子力災害被災地の長期的復興・まちづくり研究

福島の復興は現在進行形。徹底的に現場に通い真に役立つ提言をする!

主担当 教　授 **御手洗 潤**

博士（工学）。
1992年建設省入省。
在シンガポール日本大使館一等書記官、
内閣府（防災担当）、
国土交通省都市局都市計画課開発企画調査室長、京都大学経営管理大学院特定教授、
内閣官房オリパラ事務局参事官、
復興庁原子力災害復興班参事官等を経て、
2021年より現職。

東北大学を目指すからには、東日本大震災には何らかの思いを持っていませんか?しかし、普段その爪痕を見聞することは減ってきています。復興はもう終わったのでしょうか?いえ、福島の原子力災害被災地の復興は、未だ現在進行形。例えば、今なお立入りが禁止されている地域が広く残されています。

プロジェクトDでは、福島県富岡町及び大熊町をフィールドとして、被災地・被災者、そして復興に向けた様々な取組の現状と課題を探るとともに、主にまちづくりの視点から政策を提言します。特徴は現場主義!　受講生には、まず、被災地を歩き、関係者の声を聴き、課題を自分事にすることが求められます。一方で、一つの木だけではなく森全体を見ることも必要です。また、被災地・被災者は様々で、思い描く復興の姿も一様ではないため、我々の政策提言で目指す「復興」とは何か大いに悩むでしょう。それでも、未来に向かって、復興を一歩でも進める現実的な政策提言を目指し、進んでいきます。

在学生から 実践的なスキルが身につく

宮城県出身
東北学院大学教養学部卒業　**小林 京介**（2022年度入学）

地域の課題を解決するために、アイデアを考えるだけではなく、それを形にするまでの過程を経験できたことが本大学院で得た大きな財産です。ワークショップⅠでは、共生社会を実現するきっかけづくりとして多様な人々が交流できるイベントを企画・運営しました。政策実施者として活動したことで、課題解決の難しさを肌で感じることができました。

仲間とともに将来の社会を構想する2年間の学びは、社会で活躍していくために必要な時間であると確信しています。

特長 2

高度で多彩なカリキュラム

実践的なアプローチを裏打ちする確かな理論の習得

POINT

「現場重視」と両輪となるのが公共政策に関する「確かな理論の習得」です。理論的な裏付けのない単なるアイデアの寄せ集めでは「政策」とは呼べません。このため、法学、政治学、経済学など多角的なアプローチを身に付けるための履修科目を用意しています。

カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
必須科目（政策調査と論文作成の基礎、公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップIIA）	必須科目（公共政策ワークショップIIB）
基幹科目	基幹科目	基幹科目	基幹科目
展開科目	展開科目	展開科目	展開科目

必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI（12単位）」及び「公共政策ワークショップIIA（2単位）」「公共政策ワークショップIIB（6単位）」並びに「政策調査と論文作成の基礎（2単位）」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論文作成のための基礎的な技法を習得します。論理的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行っています。

基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法律学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されています。科目によっては、研究者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計大学院の授業を履修することもできます。

東北大学公共政策大学院科目一覧（令和5年度実績）

1 必須科目

■公共政策ワークショップⅠ
・プロジェクトA ・プロジェクトB
・プロジェクトC ・プロジェクトD
■公共政策ワークショップⅡ A・B
■政策調査と論文作成の基礎

2 基幹科目

公共政策基礎理論／公共政策特論／実務政策学
地域社会と公共政策論／行政の法と政策
租税政策論／公共哲学／地方自治法／防災法
グローバル・ガバナンス論／経済学理論／財政学

3 展開科目

法と経済学／環境法／実務労働法／社会保障法／経済法／国際関係論演習／比較政治学演習
西洋政治思想史演習／日本政治外交史演習／防災政策論演習
アジア政治経済論演習／中国政治演習／環境・コミュニケーション演習／経済産業政策特論
比較公共政策／震災復興における政治・行政／日本政治演習／行政学演習
政策評価論／政策分析の手法／経済と社会／現代政治分析演習／開発協力論演習
多様性社会と法演習／国際法発展／租税法基礎

※上記科目は、令和5年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

在学生から

魅力あふれる学びの場

京都府出身
立命館大学法学部卒業　榊原 翔平（2022年度入学）

本大学院の魅力は、学生という立場でありながら、実際の現場を訪問し、政策の最前線に触れる機会が多いこと。そして、多様なバックグラウンドを持つ学生と議論する中で、多くの価値観に触れることができることだと感じます。特に、ワークショップでは、教員の方々の人脈や経験、知見を最大限に活用させて頂き、政策提言を作成することができました。本大学院では、ワークショップ以外にも多くの場面で貴重な経験ができ、唯一無二の魅力的な学びを得られると思います。熱意と意志をお持ちの方は、ぜひ本学の門を叩いてみて下さい。

教員紹介

国際法　理事・副学長・教授　**植木 俊哉**

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。
2004年から2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、
2006年から東北大学理事・大学院法学研究科教授、現在に至る。専門分野は、国際法・国際組織法。

充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特長としています。皆さんは、「公共政策ワークショップ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしています。

中国近代政治史、現代中国政治

教　授　**阿南 友亮**

1972年東京生まれ、慶應義塾大学法学部卒。
慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻
博士課程単位取得退学。博士（法学）。2011年に
東北大学赴任、2014年より現職。
専攻は政治学（中国政治、日中関係）。

地に足のついた解決策を編み出そう

日本が抱える行政課題は多岐にわたります。公共政策大学院での学びの大きな特徴は、それらの課題の中身について分析することに留まらず、具体的な解決策についてじっくり考察し、提案することです。ぜひ本学で仲間たちと一緒に日本が必要とする解決策についてトコトン考え、議論してください。

政治思想史

教　授　**鹿子生 浩輝**

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒、
九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程
修了。博士（法学）。2017年4月より現職。
専門分野は政治思想史。

実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそもどのような政治的価値に基づいているのか、その価値判断それ自体が適切なのか。こうした根源的な問題の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかもしれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

行政法

教　授　**飯島 淳子**

東京大学法学部卒業、
東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。
2012年より現職。

これからの社会を作っていくには

命を脅かす危機や時代の急激な変化のなかで、それでもこれからの社会を作っていくには……。一人で考えるにはあまりにも重い課題かもしれません。仲間とともに、身近な現場から密に学び、真剣に議論を交わしながら、チームとして政策を作り上げ、社会に問いかける。こうした決して簡単ではないことを肌と頭で地道に、確実につかみとる「場」として、東北大学公共政策大学院は独自の意義をもつと考えています。

労働法

教　授　**桑村 裕美子**

鳥取県出身。
東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究科助手、
東北大学大学院法学研究科准教授を経て、
2021年8月より現職。博士（法学）。

困難な問題にどう向き合うか

社会の問題は複雑で、簡単に「解決策」を導き出すことはできません。しかし、現在の政策でうまくいっていないならば、何かできることがあるはずです。本大学院の様々な授業を受講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経験をしてみませんか。単なる思いつきではなく、しっかりとした制度理解に基づく政策立案の手法・プロセスを学ぶことができるのが、本公共政策大学院です。

行政法

教 授　**大江　裕幸**

山形県出身。東京大学法学部卒業。東京大学大学院
法学政治学研究科博士課程単位取得退学。
信州大学講師、准教授を経て2021年4月より現職。
専攻は行政法。

公共政策実現のツールとしての行政法

皆さんは、行政法にどのようなイメージをお持ちでしょうか。公務員試験のために懸命に暗記する（した）法律科目の一つといったところでしょうか。行政法は、法解釈論としての側面だけではなく、制度設計論としての側面を有しており、公共政策を考える場合には後者の側面が特に重要になります。法的な可能性と限界を見極めつつ、公共政策実現のツールとして行政法を使いこなす姿勢と能力を修得されることを期待しています。

社会安全政策論

教　授　**坪原 和洋**

2003年警察庁入庁。兵庫県生田警察署、警察庁警備企画課、
人事院給与第三課課長補佐、福岡県警察公安第一課長、
警察庁総務課課長補佐、東京都都民安全推進課長、
警察政策研究センター主任教授等を経て2021年8月より現職。

「現場」を意識した政策の学びと実践

皆さんが政策と聞いてイメージするのは、法律・政府計画等の公用文のきれいな文章かもしれません。確かにこれらの文書で政策の全体像を把握できますが、具体的な政策を企画する時には、現場を見て、何が起きているのかを虚心坦懐に受け止め、様々な立場の意見を聴き、社会にとってベストな施策を真摯に考え抜く必要があります。本学のワークショップはその貴重な機会です。ぜひ私たちと「現場」で一緒に学びましょう。

比較政治学、政治経済学、国際ボランティア論

教　授　**岡部 恭宜**

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。
博士（学術）。東京大学社会科学研究所、JICA研究所
を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、
国際ボランティア論。

多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学といった複数の学問から焦点を当てることも必要ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠かせません。研究対象についても、中央や地方の政府の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国家アクターの戦略や行動に目を向けることが求められます。本学はこうした多様なレンズを用意しています。是非覗いてみて下さい。

国際関係論

教　授　**戸澤 英典**

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科
博士課程単位取得退学。EU代表部専門調査員、
大阪大学法学部講師・助教授を経て
2005年4月に東北大学赴任。2014年から2016年まで
公共政策大学院長。2022年より法学研究科長・法学部長。

手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワークショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体となって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展させていると自負しています。少子高齢化や格差社会の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく国際状況はますます険しさを増していますが、この難しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。

国際法

教　授　**西本 健太郎**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。2019年8月より現職。専門分野は国際法・海洋法。

変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これからも通用するとは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経済のグローバル化による産業構造の変化といった様々な変化の中で、そうした局面は今後増えていくことでしょう。変化する時代の中では、過去のやり方にとらわれず、表面的な新しさにも惑わされず、課題の本質を的確に見極めることが一層重要になります。東北大学公共政策大学院では一つの課題と徹底的に向き合うための場を用意して、皆さんをお待ちしています。

社会保障政策

教　授　**藤田 一郎**

1995年厚生省入省。米国留学、滋賀県出向、タイ国赴任。厚生労働省年金局国際年金課長、医薬・生活衛生局生活衛生課長、国土交通省住宅局安心居住推進課長を経て、2021年9月より現職。

現実社会の課題を考え抜く

複雑化した現代社会において、単一の施策だけで対応できる社会課題はほとんどないといっても過言ではありません。社会保障政策においても分野横断的な対応が求められ、さらには社会保障以外の政策分野との連携も必要となっています。当大学院では、公共政策ワークショップ等、実際の社会課題に対する政策を検討することを通じ、これからの政策担当者に求められる、既存の制度の枠組みにとらわれない思考を身に付けることができる場を提供します。

日本政治外交史

教　授　**伏見 岳人**

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。2019年8月より現職。専攻は日本政治外交史。

日本の未来像を議論する

公共政策ワークショップは、地域社会や国際社会の直面する現在進行形の問題を取り扱う実践的な教育プログラムです。全国各地から集う仲間たちと共に、自治体や現場でのヒアリングを数多くこなし、多種多様な資料を読み込んで、チームとしての提言にまとめていく作業は、公共政策の担い手を志す人々には一生の財産と呼ぶべき貴重な経験になることでしょう。この仙台の地で、皆さんと一緒に日本の未来像を真剣に議論できることを楽しみにしています。

防災政策、事業継続計画
（国土交通省出身）
（本務：災害科学国際研究所）

教 授（兼務）**丸谷 浩明**

1983年東京大学経済学部卒。建設省入省後、内閣府防災担当企画官、京都大学経済研究所教授、（財）建設経済研究所研究理事（東京工業大学特任教授を兼務）、内閣府防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策研究官を経て、2013年10月より現職。経済学博士。

公共政策としての防災を学ぶ

2011年に発生した東日本大震災の被災地の大学として、東北大学に災害科学国際研究所の設立が認められ、今日、世界の防災研究の主要拠点となっています。また、2015年3月に仙台で開催された「国連防災世界会議」では「仙台防災枠組」が採択され、世界の防災の目標となっています。そして、近年も各地で災害が続き、その教訓を踏まえて防災政策は見直しが続いています。公共政策としての防災を共に学びましょう。

現代政治分析

准教授　**金子 智樹**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。日本学術振興会特別研究員を経て、2021年10月より現職。専門分野は現代政治分析（日本政治・政治コミュニケーション）。

公共政策をいかに分析するか

現代の日本が抱える政策的な課題は膨大かつ切実です。特にこれから社会に出る若い皆さんは、「負担の分配」という困難な現実に、当事者として直面せざるを得ません。本大学院で日本の公共政策に向き合うことは、パブリックなものに奉仕する第一歩となるでしょう。私の専門である現代政治分析は学際的な分野であり、データ分析やフィールドワークなど、そのための様々なアプローチを提供します。お会いするのを楽しみにしています。

租税法

准教授　**藤原 健太郎**

長野県出身。東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教、同講師を経て2021年4月より現職。

確かな方法論によって社会に切り込む

首尾一貫した公共政策を実現するためには、それを支える方法論を学ぶことが不可欠です。本学公共政策大学院では、ワークショップという実践を重んじる授業に加えて、深い理論を学ぶ授業が提供されています。普段は役に立たないようにも思える理論も、判断に迷う場面で意思決定を求められたときに導きの星になってくれます。我々は、皆さんが緻密な理論的思考を武器にした公共政策の担い手になることをサポートします。

行政法

准教授　**堀澤 明生**

東京大学法学部第三類（政治コース）卒業、神戸大学大学院法学研究科実務法律専攻（法科大学院）修了。北九州市立大学法学部准教授等を経て2023年より現職。

確かな法解釈論に基づく法政策論を

政策担当者にとって、法は、人々を統御するためのツールであり、必要に応じて新しく作ったり、改良したりする必要があります。しかしその際にも、既存のもので何ができるのかや、新しく作られた法がどのように実際には解釈・運用されていくことになるのかを考えた上でこそ、よい法を作ることができると思います。

美しい仙台の街で、充実したスタッフや仲間と共に学びましょう。

行政法

准教授　**諸岡 慧人**

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教を経て、2020年4月より現職。

杜の都で地域に向き合い考える

みなさんは、本大学院の目玉である公共政策ワークショップにおいて、経験を積んだ実務家教員の指導のもと豊かな実践の機会を与えられます。私は、研究者教員の一人として、理論的背景を学ぶお手伝いをします。課題が生じている、そして人が暮らしている地域に徹底的に向き合って、大いに悩み楽しんでください。この杜の都で、そして東北地方で、豊かな現実に挑みたいみなさんを歓迎します。

公共政策大学院長
教 授　西岡　晋（行政学）…… 2ページ

教 授　松村 孝典（農林水産政策）…… 6ページ

教授・副院長　江口 博行（環境政策・環境法）‥ 7ページ

教 授　石山 英顕（地方行財政政策）…… 6ページ

教 授　御手洗 潤（まちづくり政策）…… 7ページ

特長 3

少人数制による
キャリア形成支援

教員との近い距離感、実務家教員も含めたキャリア形成支援

POINT

公共政策ワークショップⅠ・Ⅱの指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシヴに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生については、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の強みを活かした取組も行っています。

我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

在学生から

やりたいことが見つかる場所

千葉県出身
関西大学法学部卒業　武藤 誉仁　（2022年度入学）

本学に進学したことで、進路選択の可能性が多様に広がったと実感しています。公共政策ワークショップでのフィールドワークを始め、実務家教員の授業を通して、実際に現場で起こっている問題について自分で考え、仲間と共に解決に向けて話し合いを重ねることで、自分の興味・関心、問題意識がより明確になります。それと同時に、公務員や民間企業、研究者など、どの業種・業界でも求められる問題解決能力を身につけられる点が、本学の強みであると感じています。

Campus life キャンパスライフ

働きながら学び直しを希望される社会人の方に

東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。

公益財団法人職員

佐藤　多聞　宮城県出身（2022年度入学）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は現在、仙台市内の公益財団法人の職員として勤務し、市民対象の文化芸術事業やスポーツ事業の企画等を担当しています。しかし前例踏襲の業務が多く、時代の変化や市民のニーズに、業務や組織が対応できていないことを日々心苦しく感じていました。

そこで、実際の現場で政策立案を体験できる授業「公共政策ワークショップⅠ」があることや、研究者・実務家教員の双方から指導が受けられる本学こそ、時代や市民のニーズの変化に対し、理論と実践の両面からアプローチできる魅力的な環境であると考え、入学しました。

仕事との両立について

長期履修制度（4年間）を活用し、フルタイムの仕事を続けながら有給休暇日や公休日に通学しています。入学当初は大学院と仕事の両立に慣れない事もありましたが、先生方や仲間に温かく迎えていただき、日々楽しく両立できています。

現在の学習内容

1年次は、必修授業の「政策調査と論文作成の基礎」と「公共政策ワークショップⅠ」を中心に履修しました。「公共政策ワークショップⅠ」では「パラリンピックのレガシーとしてのダイバーシティ＆インクルージョン都市の形成に向けた研究」をテーマに、秋田県大館市をフィールドに調査活動を行いました。先生方やメンバーと多くの調査や議論を共にし、実際の現場で政策立案を体験できたことは、非常に良い経験となりました。また「政策立案者」の視点だけではなく、仙台市内等で開催されたユニバーサルスポーツ「ボッチャ」の体験会運営やボッチャ大会への参加を通じ、「政策実施者」としての視点も体験できました。

２年次以降は、リサーチペーパーの執筆へ向けた準備を進めていきます。

今後の抱負

大学院では、多く貴重な経験をさせていただき、また多くの人々とのネットワークを築くことができています。このような素晴らしい環境に感謝するとともに、経験を社会に還元し、文化芸術・スポーツを核とした社会づくりに取り組んでいきたいと思います。そして、修了後は博士課程に進学し、さらに研究を進めていきます。

1週間のスケジュール

2022年前期・後期（黄色…前期のみ、ピンク…後期のみ、オレンジ…通年）

	月	火	水	木	金	土
1時限	【講義】実務政策学E 社会安全政策論演習	【講義】行政の法と政策				
2時限	【講義】公共哲学					
3時限	【講義】実務政策学D 社会安全政策論	公共政策ワークショップⅠ	【講義】震災復興における政治・行政			
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎					
5時限						
6時限						

※有給休暇と公休日を活用し、月曜日・火曜日・水曜日に履修を行った。講義のない時間帯は勤務

2023年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限					【講義】公共政策基礎理論	
3時限					【講義】環境政策	
4時限						
5時限					【講義】公共政策特論	
6時限						

※講義のない時間帯は勤務

地方議会議員

髙橋　聡輔　宮城県出身（2020年度入学）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は、東日本大震災後の2011年8月から、宮城県加美町の議会議員として行政に携わってきました。町議会議員をさせていただき10年を迎えようとしている頃、自らのスキルアップのために何かしなければと思っているときに、東北大学公共政策大学院の受験を決意しました。決め手は、しっかりとした知識を得るための研究者教員はもちろん、実務家教員の経験を踏まえた講義・指導を受けられることや、多くの先生方との人脈を広げられることでした。また長期履修制度も、私のような社会人には、自分のペースでじっくりと学べる決め手となりました。

仕事との両立について

長期履修を活用しており、最終年を迎えております。初年度はワークショップや必修科目の曜日が固定のため、やむを得ず欠席することもありましたが、社会人の仕事に対して理解のある先生方や、仲間の協力で何とか両立できたと思います。2年目以降は週に2回程度の通学で、自分の興味のある分野に対する講義を履修し、先生方との交流や新たな仲間との出会いを楽しみに学んでいます。

現在の学習内容

1年目のワークショップでは、自分の不得意分野であった農業（農地・担い手の課題）と地域振興策について仲間と共に学びました。2年目以降は世相に合った、地方創生・SDGs・多様性社会など自治体運営で必要な法令改正等を学んでおります。今後は、地方創生テレワーク交付金による地域振興策の効果・課題について、主観的・客観的両面の視点からアプローチを行いリサーチペーパーの完成に向けて取り組んでいきたいと思います。

今後の抱負

公共政策大学院ではタイムリーな話題について実務家教員により解説してもらえることも魅力の一つだと思います。地方行政に携わる私にとっては、国の動向をどのようにすれば各自治体に最適化し提言できるかが必要になります。そのためにも修了までに先生方などとのネットワークを広げ、積極的に議論をし、少しでも自分の仕事にも還元できるような学びをしていきたいと思います。

1週間のスケジュール

2022年前期・後期（黄色…前期のみ、ピンク…後期のみ）

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限			【講義】実務政策学F 社会保障政策論	【講義】政策税制論		
3時限					【講義】地域社会と公共政策論I 地域環境政策（隔週）	
4時限						
5時限						
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務（公務または自営業）

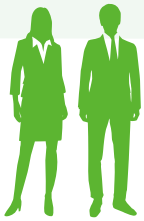
2023年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限			【講義】日本政治外交史演習I			
3時限						
4時限	【講義】多様性社会と法演習					
5時限						
6時限						

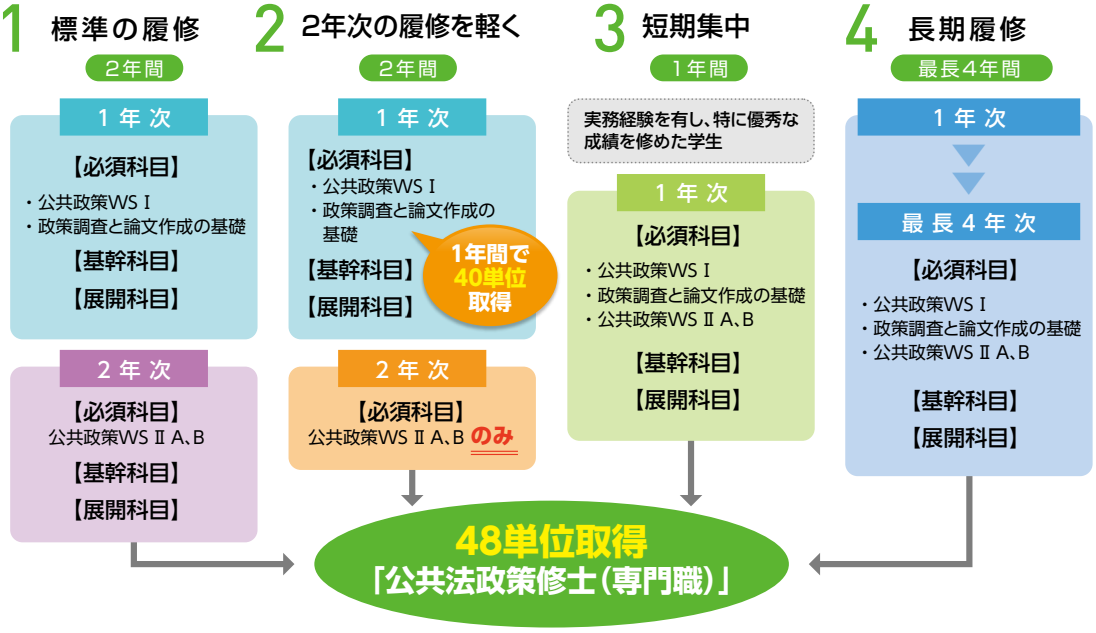
この他、講義のない時間帯は勤務（公務または自営業）

他にも、市議会議員、町議会議員、国家公務員、市役所職員、民間企業社員、大学職員、NPO職員として働きながら又は休職して、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

社会人学生の履修モデル



東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間での修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



1 標準の履修　2年間

2年間で48単位を取得し修了します。

2 2年次の履修を軽く　2年間

公共政策WS Ⅱ 以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WS Ⅱ の8単位を取得し修了します。

3 短期集中　1年間

修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

4 長期履修　最長4年間

履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修（2年間）の場合と同額に設定されています。

! 地方公務員の方へ　～「自己啓発等休業制度」のご確認を ～

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給ですが、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

- ☑「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例
- ☑大学院も履修先として規定
- ☑休業期間は原則２年間

是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。

座談会 公共政策大学院で学び始めて

この座談会は、2023年5月18日、教員の呼びかけに応じた有志の1年生4名、2年生2名が東北大公共政策大学院での経験を語り合ったものです。

森川：さっそくですが、東北大学公共政策大学院を志望した理由から教えてください。

鈴木：実務家の先生に指導していただけるワークショップに魅力を感じて、実務と理論の両方を勉強できるところや、ほかの県や海外から来た様々なバックグラウンドを持った人と一緒に学べるところがいいなと思いました。

浅野：私が暮らす宮城県大崎市は、過疎で中心街が空洞化してきたり農地が荒れたり、地方創生に力を入れないと未来が危うい状況になってきています。これは全国でも同じではないかと思いますが、地方創生について学び、現場に赴くことを大切にしているワークショップで住民の方々が求めているものを掴み、血の通った提言ができればと思いました。

横田：私は元々法科大学院を目指しており、東北大の法科大学院を調べている時に公共の存在を知りました。学部時代は行政法を専門にしており、判例解釈などの最後に「立法的解決が望ましい」と言われることが多く、その法律や政策を作る側になりたいと思い公共のほうを選びました。

森川：社会の課題から政策に興味を持ったり、法律というツールからだったり、関心の方向性が様々な人たちが集まってきていますね。

佐藤：僕は防衛大学校から航空自衛隊に入り、そこを辞めてここに来ました。防衛や安全保障、防災などの危機管理がやりたくて防衛大に入ったのですが、現場と政策立案する側、僕たちの言葉で言うと「制服」と「背広」では、できることがまったく違います。現場の視点を持った政策立案を行政官としてやりたいと思い、勉強し直す必要があると感じてここに来ました。

武藤：まさに東北公共の理念である「現場力」を体現されていますね。私も学部での机に向っての文献や事例研究に限界を感じ、公共が大切にしている「現場力」に魅力を感じて進学しました。

森川：僕もそれに近いですね。学部時代に机上で数字だけ見ていても現場で何が起きているのかわからないことに限界を感じ、直接課題に向き合えるワークショップに惹かれて志望した次第です。

今は方向性が違うメンバーを一つにまとめていく過程が楽しいです

森川：入学して約1ヶ月半、実際にワークショップに取り組んでみてどうですか？

佐藤：ワークショップDは「福島原子力災害被災地の長期的復興・まちづくり研究」で、富岡町と大熊町をフィールドに研究しています。ひとりでやるわけではないので、自分が良ければいいとか、誰かがやってくれるということは通用せず、意見が割れたりする難しさもあります。でも僕はチームで何かすることが好きなので、これから楽しみですね。

横田：ワークショップCは「資源循環・気候変動・自然共生に関わる国内外の動向及び対策に関する研究」をやっています。生活に身近なプラスチックを切り口に政策提言しようということで、先月は仙台市のリサイクル工場に行ってヒアリングしてきました。それで俄然興味が湧き、県内のほかの自治体に行ってみたいと思っているのですが、やはり今は各々方向性が違うので、そこをどう一つの方向にしていくかと、組織の中での自分の立ち廻り方を考えているところです。でも、楽しいです。

鈴木：楽しいの、大事ですね。

森川：ちょうどこの時期にお互いのキャラが定まってきて、自分の役割を見出していくことはとても重要なことだと思います。

浅野：ワークショップBでは山形県鶴岡市を研究対象にして、「広域合併自治体の行政体制と旧町村の地域振興に関する研究」をやっています。文化や風習の異なる非常に広範な地域が合併し、地域が抱えている課題も様々です。その中からどれだけ効果のある政策を提言できるか、切り口を探すことから苦戦しました。

鈴木：ワークショップAは「自分の故郷を元気にする地域振興政策を提唱する」です。今のところデジタル田園都市国家構想総合戦略とまち・ひと・しごと創生法案の議事録を学生でまとめ、先生を交えて報告・議論しています。うちのメンバーはちょっとおかしくて、いつも大学にいるんです。昨日も自主ゼミを４時間やりました(笑)。

■ 司会者

森川 門音
広島県出身
京都大学出身
（2022年度ワークショップB所属）

武藤 誉仁
千葉県出身
関西大学出身
（2022年度ワークショップB所属）

■ 参加者

鈴木 悠平
宮城県出身
福島大学出身
（2023年度ワークショップA所属）

浅野 恵一
宮城県出身
法政大学出身
（2023年度ワークショップB所属）

横田 楓
東京都出身
広島大学出身
（2023年度ワークショップC所属）

佐藤 空飛
福島県出身
防衛大学校出身
（2023年度ワークショップD所属）

武藤：本当にそう、ずっといますよね(笑)。各WSは社会人学生の方は何名くらいいらっしゃいますか？
浅野：うちは社会人経験者も含めて3名です。やはり交渉が上手かったり、公務員の方だと現場の実務や人脈が参考になります。
佐藤：Dは市役所職員の方が1名です。
森川：ほかの2つはいないんですよね。今年はちょっと少ないかな。僕がM1の時に所属したワークショップにも省庁を休業して来られた方がいて、ヒアリングの際のメールのやり取りや当日の運びの組み立て方など、とても勉強になりました。社会人がいるのも東北公共の強みですから、実務面や知識などを吸収してもらえればと思います。

政策を形成するプロセスや、折衝する時の体験が伺えるのが興味深い

森川：ワークショップ以外の授業はいかがですか？
横田：丸谷先生の防災法の授業を取っています。実際に政策を作った先生なので、当時のエピソードを伺えるのが楽しいですね。また藤田先生の授業では学部生とペアを組むので、外部から来た私には東北大の学生の話を聞けることが楽しいです。
森川：先生の話を聞くというより、結構ワークショップ形式の授業が多いですね。学部生が一緒のことも多いので、とても実践的で主体的に学べる授業が多いと思います。
浅野：僕も防災法を学べる大学はそれほど多くないのではないかと思っています。東日本大震災があったところですから、災害に対するノウハウや知見の蓄積が非常に豊かなので、そこで学べることは大きいと思います。

鈴木：僕はワークショップの指導担当教員の松村先生の授業を、毎週とても楽しみにしています。公務員志望なので、政策を形成するプロセスや、折衝する時の体験が伺えるのが興味深いですね。また先生はお笑いの技術が面白く、僕も見習いたいと思います(笑)。ワークショップよりも大変なのが「政策調査と論文形成の基礎」。しんどいですが、頑張ってやっていきたいと思います。
武藤：その授業には私たちも結構苦しめられました。でも、そこでやるかやらないかで、ワークショップの中間報告や最終報告でだいぶ差が出ます。その授業でみんなの前でプレゼンする機会があって良かったと、「後から」思いますね(笑)。
森川：中間報告は40分。暗記してプレゼンすることが求められるので、最初にその授業で試練を乗り越えておくことは、後になって生きてくると思います。
佐藤：「政策調査と論文形成の基礎」は結構好きです。僕は法学部でもなく理系なので、公共政策大学院に行って大丈夫かと不安だったのですが、ワークショップに役立つことや法律や行政、政策などを基礎から教育し直してくれて、ここでしか学べないことや視点をインプットしてくださることはすごくいいなと思いました。法学部出身でなくとも、活躍できるようなカリキュラムが組まれています。

学部時代にできなかったことをやり直すには、仙台は最適な場所だと思います

森川：仙台に初めて来た方もいると思いますが、生活環境などはいかがでしょうか。
浅野：僕は宮城出身なので、東京方面の大学から来る方にアドバイスするなら、多少細い道でも治安はいいです。仙台でも雪は降りますし、春先でも寒いと感じる日があるので、そこはちょっと覚悟していただいたほうがいいかもしれませんが、新幹線で1時間半くらいですし、学生が住みやすい街だと思います。
鈴木：僕も実家から通えないことはないんですが、仙台市内に引っ越して来て、家と大学の往復です。
武藤：さくらキッチン（学食）のヘビーユーザー(笑)。
鈴木：あまり良くない生活ですね(笑)。
森川：ワークショップが忙しくなると、これからますます家が寝に帰る場所になります。松村先生風に言うと、生活に潤いを与えるために、大学の近くにお気に入りの店など見つけておくのも大事かなと思います。
佐藤：僕はバイクに乗るので、松島や秋保温泉によく行ったりしています。自然が近くにあるのがいいですね。広瀬川も大好きです。学生もレンタカーで出かけたりすると思いますが、学部時代はコロナでそういう機会もなかったでしょうから、学生生活をやり直すには、仙台は最適な場所だと思います。
横田：私は散歩が趣味なので、散歩コースもいろいろあるのがいいと思います。今はまだ、家と大学の往復ですけど(笑)。
鈴木：片平キャンパスや西公園の桜もとてもきれいでした。
森川：お花見や青葉まつり、仙台七夕もあるし、季節ごとのアクティビティには事欠かない街です。息抜きにもなるので、そういったイベントにも足を運んでもらえたらなと思います。

様々な仕事に取り組んでいる人の思いに触れることで、自分の将来像が変わっていくこともありました

森川：将来の進路や今後の目標の展望はどうですか？
鈴木：自分は地方公共団体で働きたいと思っています。地元の七ヶ浜町か、高校時代お世話になった多賀城市、あるいは仙台市を考えています。東京へ行きたい人も多いかと思いますが、僕は故郷のおかげで自分があると思っているので、ここで学んだことを故郷に返したいと思います。そして社会人として博士課程に進学し、仕事も勉強も、そして遊びもすべてやれる人生を送りたいですね。
佐藤：僕は防衛省か、シンクタンクの防衛研究所といった方面に進んで、安全保障政策の立案や制度設計に関わりたいと思っています。特に危機管理に携わりたいので、僕にしかできない仕事を見つけ、防衛大の同期も自衛官として活躍しているので、彼らと一緒に仕事ができるよう頑張ります。

横田：私は防災・減災を取り込んだまちづくりに興味があるので、国土交通省を志望しています。親の転勤や大学への進学でいろいろなところに住んだ経験から、全国のあらゆる地域が震災や水害のリスクを抱えていることを知りました。そういった現場の実情を吸い上げて、反映するようなモデルづくりをしたいなと思っています。真面目になっちゃった(笑)。

浅野：私はシンクタンクやコンサルタントをコアに据えながら、民間を志望していこうと思っています。公共政策の知識がある人は公務員になることが多いわけですが、最近は民間企業も官民協働など地方創生に力を入れてきています。公共政策の知識なしに取り組むのは非常に苦労すると思いますので、シンクタンクやコンサルで民間の会社にアドバイスしたり、民間企業に入って直接地方創生に携わる仕事をやることも考えられます。ノウハウの比較的少ない民間の側から地方創生に携わったほうが、行政側でも協力がしやすくなると思うので、そちらの手助けができればと思います。

武藤：これから将来の進路も考えながら授業やワークショップに取り組むと、スケジュール的にもメンタル的にもしんどい時が絶対にあります。その時は適度な息抜きと、友人との関係を大切にしてくださいね。そして今皆さんが持っている熱い思いや決意でやっていけば大丈夫です。

森川：ワークショップのヒアリングで様々な仕事に取り組んでいる人の思いに触れることで、自分の将来像が変わっていくことも自分自身ありました。その機会を自分の将来を考える上でも活かしてもらえればと思います。

東北大学は、受験者や学生の思いを受け止めてくれる熱意をストレートに伝えてみて

森川：東北大学公共政策大学院を志望される方にメッセージをお願いします。

佐藤：僕は仕事を辞めて学生に戻ったので、周りからもいろいろ言われましたし、自分でも本当にこれでいいのかと思ったこともありましたが、今はまったく後悔はしていないです。そう思えるような多様性に富んだ同期たちと出会い、むしろこの決断は人生において正しかったと思っています。

武藤・森川：かっこいい～。

浅野：背中を押してくれますね。

横田：私はロースクールか公共かでしたが、ほかの進路と悩んでいる方もいると思います。どちらに進んでもちょっとの後悔は残るのかなと私は思うんですが、10年後か20年後にあの選択は間違っていなかったと思えると思うので、そのためにもここに入ったからには2年間全力で頑張ろうと思っています。迷っているのなら、あまり不安にならずここに来て欲しいなと思います。

浅野：東北大学は、受験者や学生の熱意をとても親身になって受け止めてくれるところがあるので、何としてでも入りたいという方は、自分にはこういう思いがあるという熱意をストレートに伝えていただくといいのかなと思います。公務員になっても、政策立案は若いうちにはなかなか経験できないので、そういう貴重な体験ができるよということをアピールしておきたいと思います。

鈴木：僕はまだ、後輩に残すメッセージはないかなと思っています。僕自身が頑張ってこの1年間走り抜けて、このパンフレットを見て入って来た方が「頑張ってますか？何か面白い授業ありませんか？面白い先輩いませんか？」って僕に声をかけてくれたら嬉しいなと思います。入試は面接と小論文で、ほかの大学院のように専門科目は必要ありません。ぜひ宮城に2年間住んでくれたら、ここ出身の僕としては嬉しいなと思います。

浅野：私の経験では、公務員や大学院の小論文の本や、公務員試験の黄色い本（注：『速攻の時事』）を見ておくと参考になるかなと。

横田：受験対策は苦労しましたね。特に面接対策は全部の視点を取り込みたいと思い、民間、公務員、ロースクールに進む友人と先生にもお願いして見てもらいました。自分の思いをストレートに伝えられたら、大丈夫なんじゃないかと思います。

武藤：東北大の入試の目玉は面接ですからね。

森川：50分ありますからね。やはりワークショップは様々な意見やバックグラウンドが異なる人とディスカッションしてひとつのものを作り上げていくので、人の話を聞く力や自分の考えをわかりやすく伝える力が求められます。そういったところを見られていると思って、面接に臨んでいただければいいのかなと思います。

ここは新たな選択肢や視点が手に入る場所 不安に思わず、扉を叩いてみてください

森川：僕からもメッセージを。僕は就職が決まっていたのですが、二次募集で公共を受けました。「文系で大学院に行ってどうなる」とか、周りからいろいろ言われましたが、どうしてももっと勉強したかったんです。結果的には文系大学院生だから可能性が狭まるということは全くなくて、むしろ可能性がとても広がったと思っています。

武藤：自分の中で将来の夢や軸が決まっていてここに来たとしても、新たな選択肢や視点が手に入る大学院だと思います。不安に思わず、大学院の扉を叩いていただけたら嬉しいなと思います。

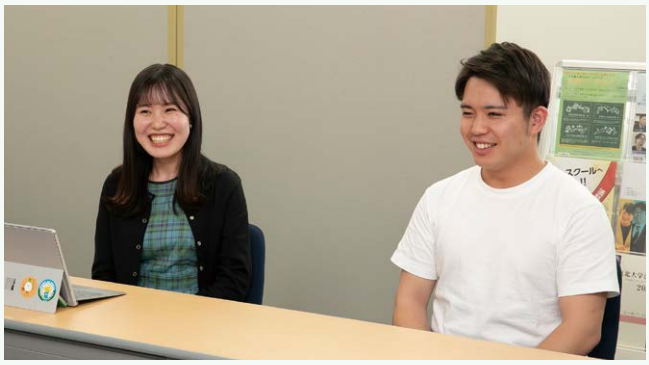
鈴木：ひょっとしたら、すでに社会に出て働いている同級生に対して引け目を感じる人もいるかもしれません。でも、もう2年間学費を払って学ぶ価値があると思います。

横田：私もそれは思っています。それでも自分はこの進路で、社会人になった方々にも負けずとも劣らない2年間を絶対過ごせると思っています。

佐藤：僕もずっと「もったいない」って言われるんですよ。「その選択肢はもったいない。本当だったらこうだったのに」みたいに。でも、東北大公共に関しては、もったいないということは絶対にないです。

武藤：キャッチコピーみたいですね。「もったいないことは、絶対にない」と。

森川：今日は皆さんにいいお話を伺えました。ありがとうございました。



2023年度の入学者の内訳

- 学部卒業後入学 27名
- 民間企業職員 2名
- 公務員 3名

合計32名

さまざまなフィールドで活躍する修了生

理論と現場の間で。

国家公務員

白井 大貴（2022年度修了）　厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課
千葉県出身、学習院大学法学部卒

「本当にこの国は生きやすい社会なのか。」何不自由なく首都圏で過ごしてきた自分がふと思った言葉。「日本という国家は世界で唯一、国民皆保険制度を敷き、生活保護制度等も存在する社会保障が手厚い国家であるが、生きやすい社会なのだろうか。」首都圏以外の地方都市では、今どのような社会問題が生じているのか。自分の足を使い、目で見て、肌で感じたいという思いから、杜の都の門を叩きました。

東北公共で私が直面したのは知識の詰め込みではなく、知識を実社会にどう適用していくのかという難題でした。そして、その根底には現場を第一とする価値観が存在し、美しい論理の世界の「理論」を実社会に適用していくその難しさを痛感しました。「ワークショップⅠ」では、まさに、その難しさに挑戦する日々を送ることができます。自身のもてる全ての知識、思考を駆使して公共問題、公共政策のあり方について研究することは、決して楽ではないですが、共に学び、悩む仲間と楽しく充実した日々を送ることができます。理論を実社会に適用する能力、言い換えれば、実践的な思考力を身につけたいなら、杜の都の門を叩いてみてはいかがでしょうか。

大きな壁を乗り越えたその先に…

地方公務員

清水 比那（2021年度修了）　山梨県庁総務部行政経営管理課
山梨県出身、津田塾大学学芸学部卒業

私は、地元に貢献できる公務員を志し、課題を的確にとらえ、最適な解に向かって実行できる力を養うため、本大学院への進学を決意しました。

東北公共の魅力の一つであるワークショップでは、机上で知識を体系的に学びつつ、自らの足で解を導くための材料を集め、仲間と共に考え続けることで、本質を見抜く洞察力や多様な角度からの考察力を培いました。また、現在、他部局の職員と多く関わる業務に従事していますが、多様な背景を持つメンバーと切磋琢磨する中で身についた広い視座や調整力が日々の業務に活かされていると実感しています。

さらに、庁内で「〇〇先生の教え子だよね!?しっかり面倒みるように頼まれてるよ」と心強い声をいただくこともあり、本大学院でのご縁を噛みしめています。

院生生活の2年間は、決して平坦な道のりではありませんでしたが、私が求めていた力はもとより、期待以上の学びがあり、今の私の支えになっています。きっと、皆さんにとっても、かけがえのない経験やすてきな出会いが待っているはずです!

さまざまなフィールドで活躍する修了生

2年間の探究から得られた「現場力」を生かして

エリザベス女王の国葬儀の終了後、天皇皇后両陛下が滞在されたホテルロビーにて。

団体職員

南雲 菜々（2021年度修了）
在英国日本国大使館
新潟県出身、新潟大学法学部卒業

私は英国・ロンドンにある日本国大使館にて、外交行事の側面支援や政府要人の接遇対応を担当しています。皇族、総理大臣、各省大臣、国会議員等のVIP、その他出張者の訪英時に、関係省庁や機関と調整・交渉を行ったり、空港やアポ先等へアテンドしたりするのが私の主な業務です。

今思い返すと、在学中の私は常にワークショップの活動で頭がいっぱいでした。しかし、日頃から社会動向を注視しつつ、課題や疑問を細部まで突き詰めるという、実務において非常に重要なスキルを培うことができたのは、紛れもなく大学院での経験があったからこそです。多角的に物事を考え臨機応変に対応する能力は、省庁や機関、そして国を跨いだ連携が求められる大使館の仕事でも大いに役立っています。

東北大学公共政策大学院での生活は、人生の糧となる経験の数々に溢れています。それらを乗り越えた２年間の先にある可能性を存分に広げたい皆様には、ぜひ入学を検討することをお勧めします。

杜の都で出会った新しい自分

国家公務員

髙村 泰成（2021年度修了）
静岡県庁市町行財政課（総務省より出向）
宮崎県出身、宮崎大学地域資源創成学部卒業

もともと防災分野に関心のあった私は、「被災地で最先端の防災を学びたい」との思いで東北公共に入学しました。実際は防災1つとっても、さまざまな法律・制度が複雑に絡み合って1つの政策が作られています。学びを通じて自身の視野の狭さを感じるとともに、法律の存在を強く意識するようになりました。法学部出身ではない私にとって、法解釈等に腐心することもありましたが学生同士で支えあいながら１つの政策提言を作り上げたとき、大きなやりがいと政策のおもしろさを実感しました。

また、カリキュラムを通じて、被災地を含めあらゆる現場に足を運ぶ機会をいただきました。現場での当事者へのヒアリングを通じて国、県、市といったそれぞれの立場から政策を考えた経験は、自身の就職活動の幅を広げるきっかけにもつながりました。

私にとって何物にも代えがたい経験と仲間を与えてくれた杜の都の学び舎は、私の可能性を大きく広げてくれました。みなさんも新たな自分との出会いを求めて、ここで学んでみませんか。

就職・進路関係

東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

政策プロフェッショナルを目指す人

現　在

国家・地方・国際公務員を志望している。

既に公務員試験に合格している人も

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップで実務体験型学習
- ●公共政策の最先端理論の体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得
- ●実務家教員による公務員志望者に対する指導

在学中に公務員試験合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員

進路の幅を広げたい人

現　在

学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める
- ●自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習
- ●政策プロフェッショナルや企業マネージメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得
- ●指導教員によるきめ細かな進路指導

在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員
◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ
◆ ジャーナリスト　◆ 民間企業のマネージメント
◆ 博士課程に進学

社会人として一段階上を目指す人

現　在

中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。

東北大学公共政策大学院（1年もしくは2年で修了、長期履修（上限4年）で修了）

- ●ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す
- ●公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得
- ●指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成

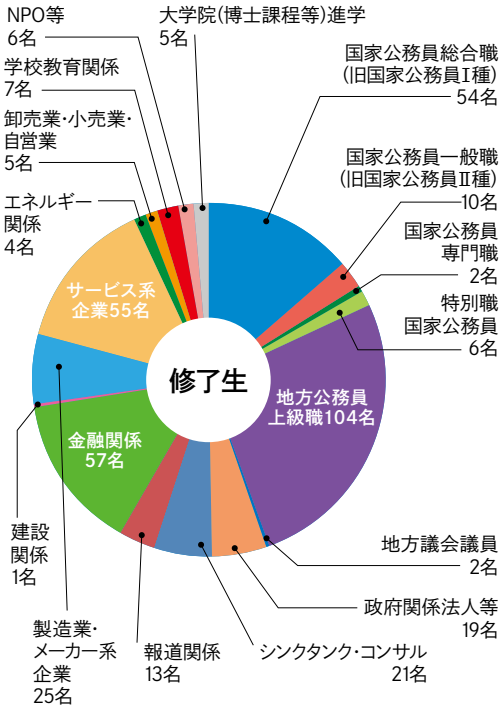
将　来

◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ
◆ 別の職へ飛躍

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

■ 修了生の主な進路先



- ●国家公務員総合職（旧国家公務員Ⅰ種）・・・人事院、内閣府、公正取引委員会、総務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院、経済産業省、金融庁、警察庁
- ●国家公務員一般職（旧国家公務員Ⅱ種）・・金融庁、公安調査庁、財務省、国土交通省、入国管理局、関東管区行政評価局、東京家庭裁判所等
- ●国家公務員専門職・・・・・・・・・・・・・・外務省、関東財務局
- ●特別職国家公務員・・・・・・・・・・・・・・参議院事務局、陸上自衛隊幹部候補生、航空自衛隊幹部候補生
- ●地方公務員上級職・・・・・・・・・・・・・・東京都庁、北海道庁、岩手県庁、宮城県庁、秋田県庁、山形県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、神奈川県庁、群馬県庁、山梨県庁、愛知県庁、兵庫県庁、沖縄県庁、札幌市役所、仙台市役所、横浜市役所、長野市役所、名古屋市役所、大阪市役所、北九州市役所等
- ●地方議会議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・仙台市議会
- ●政府関係法人等　・・・・・・・・・・・・・・・日本銀行、JETRO、国際協力機構、農林中央金庫、福祉医療機構等
- ●シンクタンク・コンサル・・・・・・・・・・・・日本総研、野村総研、富士通総研、三菱総研等
- ●報道関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、河北新報社、日本放送協会等
- ●金融関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、日本生命、ソニー生命、明治安田生命、全国共済農業協同組合連合会、野村證券等
- ●建設関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東日本高速道路
- ●製造業・メーカー系企業　・・・・・・・・・・三菱重工業、JFEスチール、三菱ケミカル、三井化学、東芝、日立製作所、三井金属鉱業、日本新薬、日本製鉄、三菱マテリアル等
- ●サービス系企業関係・・・・・・・・・・・・・日本IBM、JR西日本、NTTデータ、ベネッセコーポレーション、ヤマト運輸、JTB、楽天グループ、デジタルアーツコンサルティング、双日等
- ●エネルギー関係・・・・・・・・・・・・・・・・東北電力、北陸電力、静岡ガス等
- ●卸売業・小売業　・・・・・・・・・・・・・・・豊通食料等
- ●学校教育関係　・・・・・・・・・・・・・・・・学校法人昌平黌、宮城教育大学、東北大学
- ●NPO等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・仙台ひと・まち交流財団等
- ●大学院（博士課程等）進学　・・・・・・・・東北大学大学院（法学研究科、医学系研究科、情報科学研究科）

※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

勉強、研究をサポートする充実した施設

1 ワークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。

所属メンバーは、ワークショップ室にいつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。

（2022年6月現在、毎週火曜日午後のワークショップの授業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ワークショップ室ではなく広い講義室を使用しています。）

2 自習室

エクステンション教育研究棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉学用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。

3 学生寄宿舎

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス（写真）をはじめとした各種学生寄宿舎を、低額で利用することができます。

奨学金その他の各種支援制度

1 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度があります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、半額又は３分の１の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金（無利子）、第2種奨学金（有利子）を申請することができます。そのほか、各種奨学金（地方公共・民間奨学団体等）があります。

3 TA制度

一般入試において実施される小論文および口述試験の双方で特に優秀な評価を受けた入学者やそれに準ずる者には、1学年間、TA（ティーチングアシスタント）として、東北大学公共政策大学院における教育活動補助等に従事することで、一定の給与を支給される制度があります（年額80万円の予定）。

在学生から　実践的な学修環境

神奈川県出身
中央大学法学部卒業　**長瀬 遼**　（2022年度入学）

ワークショップ等での実践的な学びを通じ、社会における課題解決力を養いたいという思いから当学を志望しました。先生方のご指導の下、経験も知見も異なる多様なメンバーとともに1つの政策を創り上げることができたのは、私にとってかけがえのない財産です。また、TA制度のおかげで、学業に集中し、研鑽を積むことができたと強く実感しています。経済的に余裕ができたことから、学内外の活動に精力的に取り組むことができました。

入試関係情報

1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

◉学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
◉討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
◉公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

外国人留学生が本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の日本語能力と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が求められます。

2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集、内部進学者特別選抜の４回に分けて行われます。

※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に３年以上携わった方（例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方）を対象としたものです。
※内部進学者特別選抜は、国家公務員をはじめとした公共性の高い職業を志す東北大学の優秀な在学生を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。
政策法務教育コースの入学試験は、提出書類（スタディ・プラン等）及び口述試験の総合判定により行います。
内部進学者特別選抜は、提出書類（出願書身上書等）及び口述試験の総合判定により行います。

◉小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお薦めします。

◉口述試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

過去の小論文の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「令和6（2024）年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

	内部進学者特別選抜	第１期募集	政策法務教育コース	第2期募集
募集定員	合計30名			
募集要項･出願書類の配布	7月上旬	7月上旬	９月上旬	11月下旬
出願受付	令和5年7月28日（金）～8月3日（木）	令和5年9月7日（木）～13日（水）	令和5年10月16日（月）～20日（金）	令和5年12月18日（月）～22日（金）
入学試験（口述試験）	令和5年8月26日（土）	令和5年9月30日（土）、10月1日（日）	令和5年11月11日（土）	令和6年1月13日（土）
合格者発表	令和5年9月1日（金）	令和5年10月6日（金）	令和5年11月14日（火）	令和6年1月19日（金）

●募集要項及び出願書類（本研究科所定様式）は東北大学公共政策大学院ウェブサイトからダウンロードしてください。
●入学試験は東北大学片平キャンパスまたはオンラインで実施します。
●入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/

2024年度4月入学用の入試説明会及び見学会・相談会 参加費不要

入試説明会

7月	7/1(土)・7/15(土)
8月	8/5(土)・8/19(土)
9月	9/2(土)
12月	12/9(土)・12/16(土)

ワークショップⅠ 中間報告会見学会

7/17(月)(祝)・7/18(火)

政策法務教育コース「社会人向け進学相談会」

10/13(金)・10/14(土)

※上記の日程にて、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院ウェブサイトでご確認ください。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

■ アクセスマップ

- □ 東京駅から仙台駅まで約90分
- □ JR仙台駅より徒歩15分
- □ 仙台市営地下鉄東西線青葉通一番町駅より徒歩7分

■ 片平キャンパス

東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係
TEL. 022-217-4945
E-mail contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

TOHOKU UNIVERSITY

このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。
環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。